

「足立区立宮城小学校施設更新事業」 基本構想・基本計画書

令和 8 年 7 月

足立区 教育委員会事務局 学校運営部 学校施設管理課
足立区 施設営繕部 中部地区建設課

はじめに	1
I. 基本構想	2
II. 基本計画	2
III. 資料編（基本構想）	
1 敷地概要	4
2 既存施設の現状	6
(1) 位置及び周辺環境	6
(2) 地域の歴史について	6
(3) 学校周辺の状況	7
(4) 既存校舎の状況	8
(5) 児童学級数の推移・分析	11
3 施設概要	12
(1) 施設規模	12
(2) 標準施設一覧	12
4 配置計画の比較検討	14
5 ゾーニング	16
6 外観イメージ図	18
7 スケジュール	19
IV. 資料編（基本計画）	
1 配置計画	20
2 平面計画	21
3 施設一覧	27
4 構造計画概要	31
5 機械・電気設備計画	32
6 防災・減災対策	33
7 ZEB化・木材利用・LCC縮減に向けた検討方針	34

伝統ある宮城小学校の改築に向けて

足立区では、令和7年8月に第2期教育振興ビジョンを策定いたしました。

足立区教育大綱の基本理念「夢や希望を信じて生き抜く人づくり」や、学習者（児童・生徒）主体の学び、ウェルビーイングの向上の実現に向けて展開する施策のひとつとして、学校を改築することにより、子どもたちが安全・快適に過ごせる教育環境の整備に取り組んでいます。

宮城小学校の改築にあたっては、以下の点を主なポイントとして計画いたしました。

- 1 全ての児童の可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実するため、個別学習やグループ学習、ICT教育など多様な学びに対応し、学習効果を高められる施設
- 2 周囲を川に囲まれ、水害のリスクが高いという宮城・小台地域の特性を考慮し、水害時に地域の皆様が使用可能な避難所としての機能をあわせもつ施設
- 3 脱炭素社会の実現に貢献する持続可能な教育環境の実現を目指し、施設の省エネルギー化や再生可能エネルギーの活用への取り組み

宮城小学校は、宮城・小台地域にある唯一の小学校であり、令和8年度に創立80周年を迎える伝統ある学校です。

子どもたちが確かな学力を身につけ、社会性を育む場所であるとともに、地域の皆様が集う連携の拠点・地域のシンボルとして長く地域の皆様に親しまれ、愛される学校をつくってまいります。

令和8年7月
足立区教育委員会
教育長 中村 明慶

足立区では、「足立区学校施設の個別計画」に基づき、学校施設の改築を進めています。個別計画では、学校施設のあるべき姿の実現を目指し、「ア 安心・安全な学校施設」「イ 学習環境や生活環境の向上」「ウ 災害時の避難所としての学校施設」「エ 学校施設の多機能化と複合化」という4つの視点を柱として掲げています。

このたび、構造躯体の老朽化や水害時の浸水リスク、築年数等を総合的に判断した上で、宮城小学校の改築を実施することとし、基本構想・基本計画を策定いたしました。

【基本構想】

宮城小学校の改築にあたっては、個別計画の4つの柱の中でも、現校舎の課題を踏まえ、特に「イ 学習環境や生活環境の向上」と「ウ 災害時の避難場所としての学校施設」の2つの視점에重点を置いています。

学校が子どもたちの豊かな心と健やかな体を育む場（学習・生活環境）となり、同時に災害時には地域を守り、日頃から地域連携の拠点（避難場所・多機能化）にもなる。そんな「これからの学校のあるべき姿」を目指し、施設コンセプトを以下のように決めました。

宮城小学校の施設コンセプト

子どもたちの感受性を育み 地域をつなぐ みんなのまなびば

【基本計画】

基本構想で定めたコンセプトを実現するため、基本計画では4つの柱を立て、それぞれに対応する基本方策を以下のとおり決めました。これらの基本方策に基づき、具体的な計画を進めていきます。

コンセプトを支える4つの柱と基本方策

1. 学習環境

新しい発見や出会いが“ 見つかる・つながる・深まる ” 学び舎

- ① 以前に建設された学校は、L字型やコの字型の校舎が一般的でしたが、新校舎は学校全体の一体感を高める四角形に近い校舎とし、コンパクトな動線で教室間の距離が近く、目が行き届きやすい構造とします。学校内の様々な学びや活動が見えることで、児童の興味や好奇心を引き出し、学ぶ意欲と交流を促進します。
- ② 日常的に本に触れあえる機会が増える施設計画を行い、主体的・対話的で深い学びを推進します。
- ③ 校舎内のICT環境を整備し、一人一台の端末利用などをスムーズに行えるインターネット環境を構築することで、校舎全体を学習空間として利用できる計画とします。
- ④ 学校全体の繋がりが生み出されるよう、習熟度別やグループ学習など多様な学習を展開できる、開放的なオープンスペースを計画します。

II. 基本計画

2. 地域連携

“地域で子どもを育てる”共生の場

- ① まちの中心に位置する立地を最大限活かし、各方向からアクセスしやすい施設を整備することで、学校と地域が深くつながる開かれた交流の場を目指します。
- ② 北側道路に面して、地域の方々が参加するイベント等が開催できる屋外スペースを計画し、地域と学校の活動をつなぐことで新たな街並みを形成します。
- ③ 学校開放と地域学習の拠点となる居場所を計画し、日ごろの教育活動への関心や、地域全体で児童を見守り育てる機運を高めます。

3. 環境配慮

気候変動への対応と快適性を両立する環境配慮型建築

- ① 太陽光などの自然エネルギーを最大限活かした環境配慮型建築として省エネルギー化を図りつつ、隅田川と荒川に沿って吹く風を校舎内に取り込むことにより、学習環境の快適性向上にも着目した施設計画を行います。
- ② 太陽光パネルによる発電量の掲示等により、建物全体を環境教材として考え、日常から省エネなどの環境に対する意識が浸透するような施設計画を行います。
- ③ 建物の長寿命化を中心として、ライフサイクルコストの削減を実現します。
- ④ 南宮城公園から緑をつないで、日射熱の緩和とともに、まとまった潤いのある地域の景観を形成します。

4. 安心安全

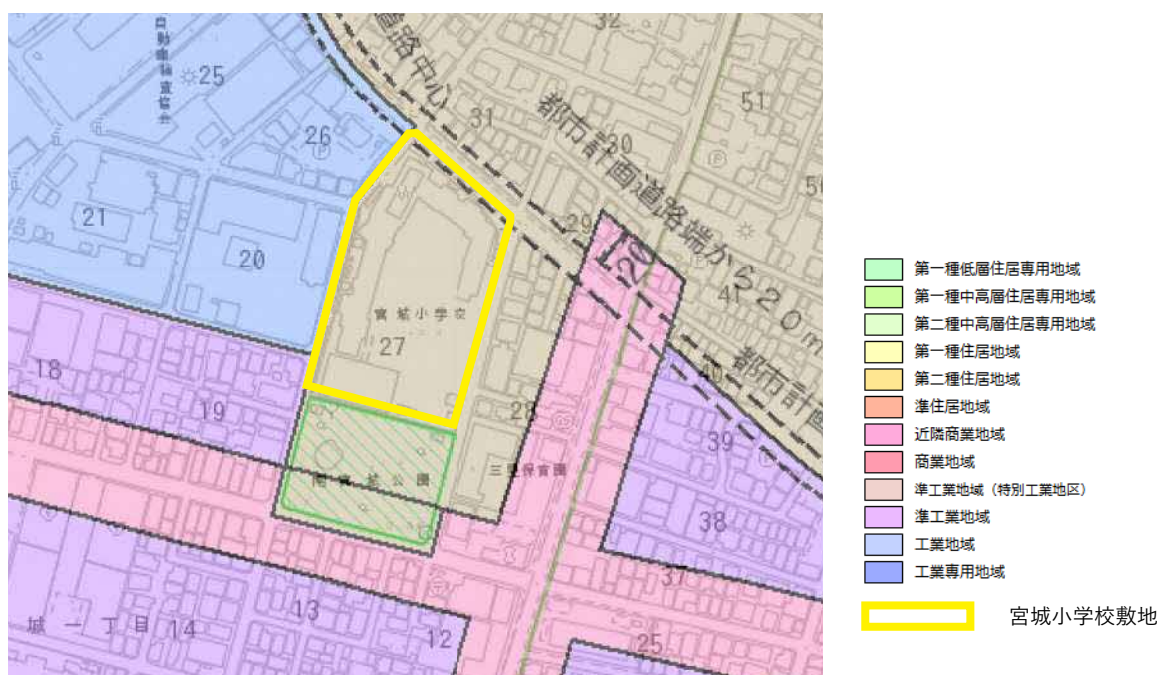
子どもたちと地域を守る安心・安全な施設

- ① 水害や地震などに備えて、避難所機能を十分発揮できる施設整備を行います。
- ② 災害後の段階的な学校再開を見据えて、機能転換と部分開放が可能な施設設計を行います。
- ③ 校舎内は、見通しの良い明快な施設構成として、生活事故防止を図ります。
- ④ わかりやすいサインやバリアフリーに配慮し、誰もが利用しやすい施設とします。
- ⑤ 東西通学路の歩道整備により、安全な登下校動線を確保します。
- ⑥ 児童の学校生活を保護者や地域の方々が見守りやすいよう、外部からアクセスしやすい位置に、地域関連諸室を計画します。
- ⑦ 放課後や学校開放時のセキュリティラインを明確にし、防犯管理に配慮した施設とします。

Ⅲ．資料編（基本構想）

1. 敷地概要

所在地：足立区宮城一丁目27番25号
敷地面積：8,494㎡（敷地実測による）
用途地域：準工業地域（特別工業地区）
容積率：200%
建蔽率：60%
道路斜線：勾配1.5
隣地斜線：勾配2.5+31m
北側斜線：制限なし
防火地区：準防火地域
高度地区：第3種高度地区
日影規制：4時間/2.5時間 測定面6.5m
道路幅員：東側幅員6.0m・西側幅員6.0m
北西側幅員6.0m・北側幅員11.0m
想定最大浸水深：4.7m（荒川）
主な関係法令等：建築基準法関係法令
都市計画法関係法令
消防法
バリアフリー法
東京都条例
・東京都建築安全条例
・東京都中高層建築物等に係る紛争の予防と調整に関する条例
・東京都福祉のまちづくり条例
・都民の健康と安全を確保する環境に関する条例
足立区公共施設等整備基準
・自主管理歩道の整備
・景観条例及び景観計画
・足立区みどりの保護育成条例（緑化基準）
・足立区公共建築物整備基準



Ⅲ. 資料編（基本構想）

1. 敷地概要

- ・ 逆日影図

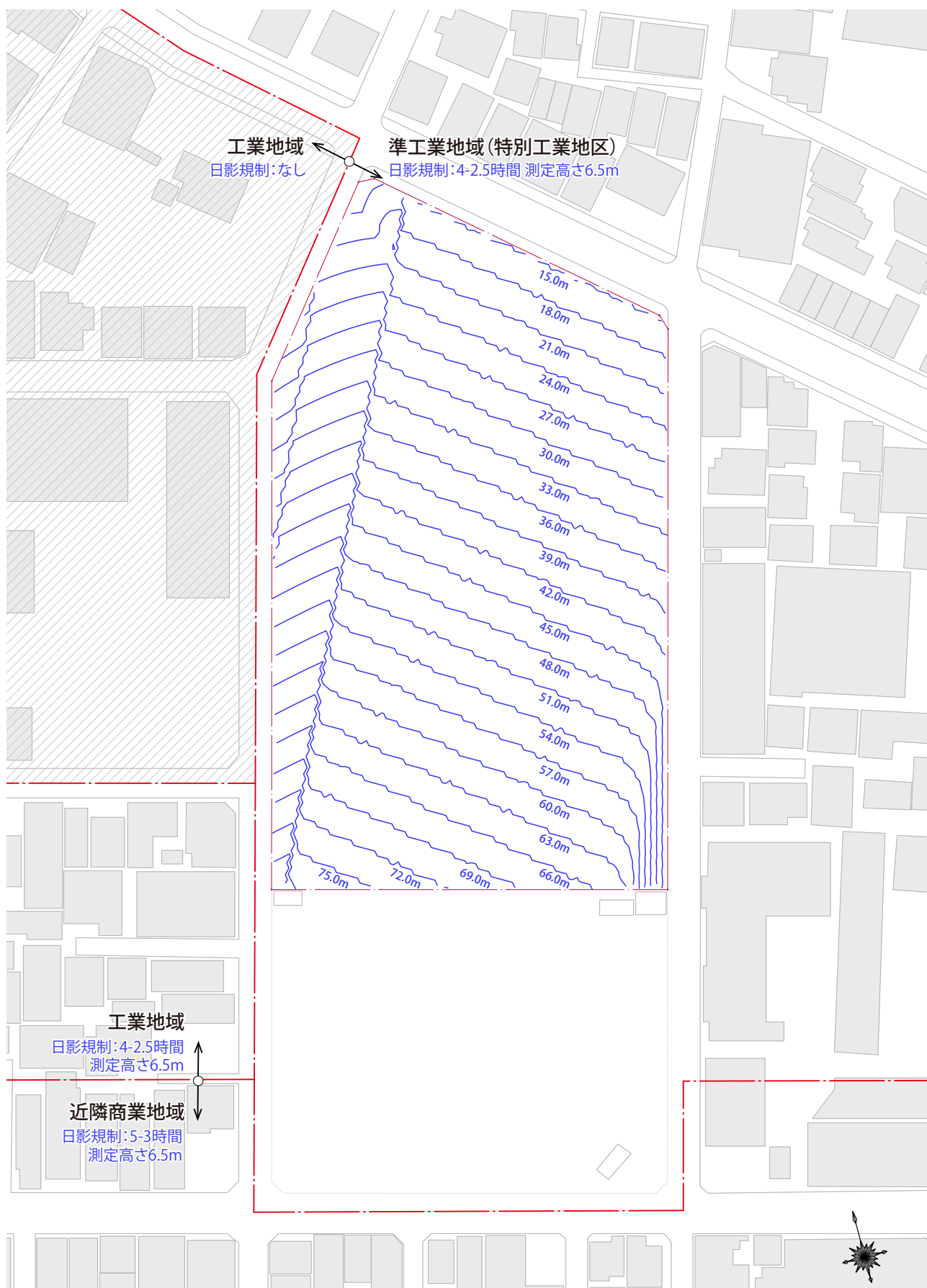


図 Ⅲ - 1-2 逆日影図

Ⅲ．資料編（基本構想）

2. 既存施設の現状

（3）学校周辺の状況

本計画地周辺は住宅街であるため、近隣住民に対する工事中の騒音や振動等への配慮が必要となります。また、前面道路の幅員が比較的狭小であることから、登校時及び下校時における児童の歩行者安全を確保するため、工事車両の通行計画について適切な検討を行う必要があります。

計画地周辺図及び現況写真については、図Ⅲ-2-2に示します。



図Ⅲ-2-2 計画地周辺図

Ⅲ．資料編（基本構想）

2. 既存施設の現状

（4）既存校舎の状況

既存の校舎は、鉤型に配置された3階建てです。校舎の中央には校庭があり、普通教室は片廊下型で配置されています。西側の1階には管理諸室（職員室や校長室など）があり、西側の2階と3階には特別教室があります。東側の1階には特別支援学級、2階にはPTA室やクラブ室（地域の外部団体による日常利用あり）が配置されています。1階の管理諸室からは校庭が見渡せるようになっています。昇降口は西側に2カ所、東側に1カ所あり、いずれも敷地東側の正門から校庭を通過して登下校します。屋上には屋外プールがあり、体育館は校舎の南側に別棟として設けられています。

・ 既存校舎 1階平面図・配置図 S=1:1000

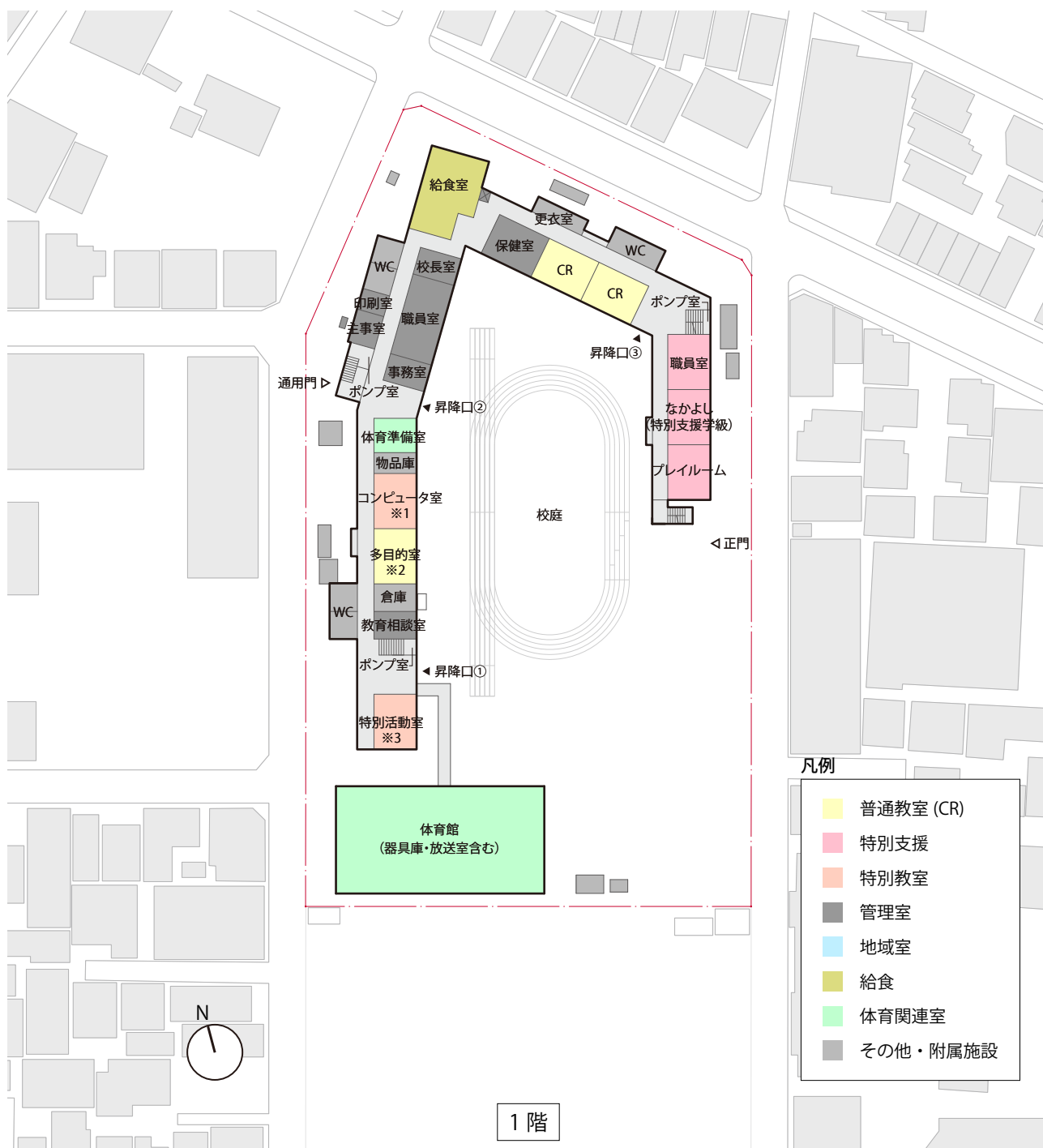
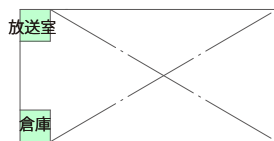
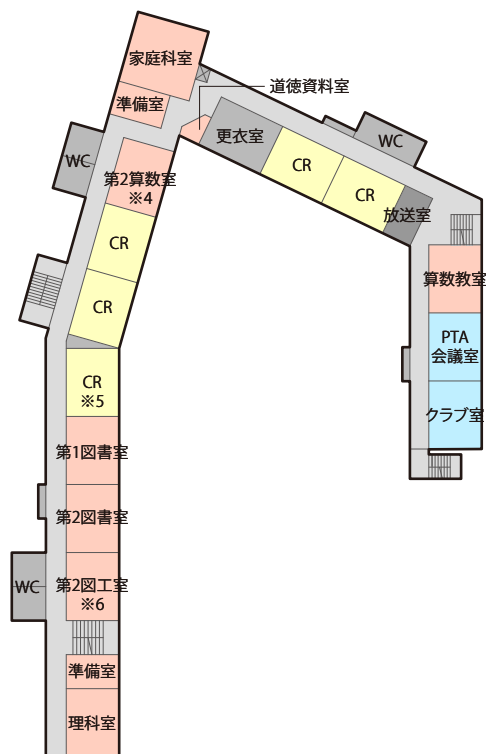


図 Ⅲ - 2 - 3 既存校舎 平面プラン①

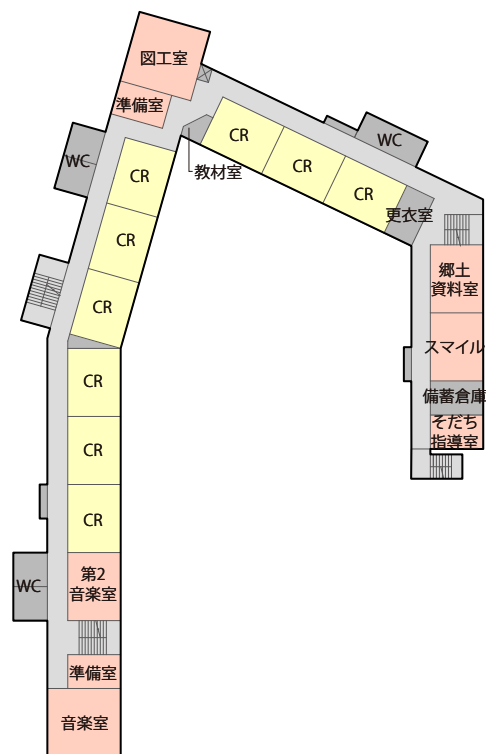
Ⅲ . 資料編（基本構想）

2. 既存施設の現状

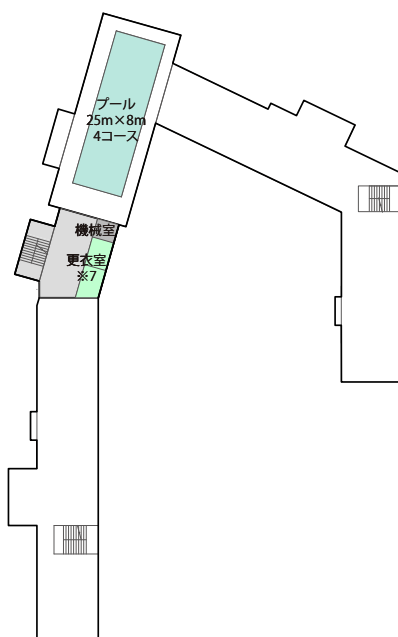
・ 既存校舎 2 階～ 屋上階 平面図 S=1:1000



2 階



3 階



屋上階

注記

平面図の室名は、施設台帳を参考に記載しています。2025 年 6 月時点での利用状況について以下記載します。
 ※ 1 PC のセッティング
 ※ 2 会議室を兼用
 ※ 3 物置
 ※ 4 ランチルーム（多目的に利用）
 ※ 5 放課後学習教室
 ※ 6 放課後こども教室
 ※ 7 物置

凡例

普通教室 (CR)
特別支援
特別教室
管理室
地域室
給食
体育関連室
その他・附属施設

図 Ⅲ - 2 - 3 既存校舎 平面プラン②

Ⅲ. 資料編（基本構想）

2. 既存施設の現状

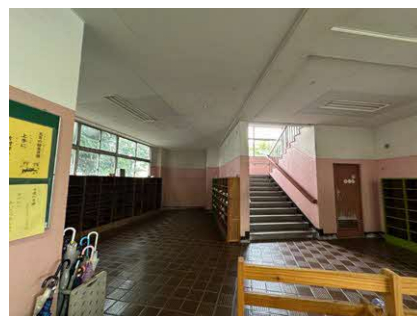
・ 既存校舎 現況写真



昇降口①



昇降口②



昇降口③



音楽室



職員室



廊下（職員室前）



相談室



主事室



事務室



普通教室



流し



図書室



クラブ室



図工室



校庭（敷地南東側より）

図 Ⅲ - 2 - 4 既存校舎 現況写真

Ⅲ．資料編（基本構想）

2. 既存施設の現状

（5）児童学級数の推移・分析

国は法令により小学校の適正規模を 12 学級～ 18 学級と定めており、足立区ではガイドラインにより小学校の適正規模を 12 学級～ 24 学級としています。

宮城小学校の学区域である宮城、小台エリアの人口は減少が予測されていますが、宮城小学校の学級数は当面適正規模で推移していくことが見込まれます。そのため、2025 年度の 15 学級（1～3 年生：2 学級、4～6 年生：3 学級）を基に、予測困難な児童数増加を考慮し、適正規模内である各学年 3 学級、計 18 学級が適する規模と言えます。

Ⅲ．資料編（基本構想）

3. 施設概要

（1）施設規模

構 造：鉄筋コンクリート造
階 数：5 階
延 床 面 積：12,300㎡程度

（2）標準施設一覧

表Ⅲ-3-1 標準施設一覧①

部門	室名		既存宮城小			新校舎(案)			
			一室の規模 (コマ)	室数	規模 (コマ×室数)	一室の規模 (コマ)	室数	規模 (コマ×室数)	備考
①普通教室 関連	普通教室		基準(1.0)	16	16	基準(1.0)	18	18	
	多目的室		1	1	1	1.9	1	1.9	
	コモンズ		-	-	-	適宜			
	コマ数小計		17			19.9(適宜の室を除く)			
②特別支援 学級	特別支援学級	なかよし(普通教室)	1	2	2	1	2	2	
		ブレイルーム	1	1	1	1.4	1	1.4	
	コマ数小計		3			3.4			
③特別教室 関連	図書室	メディアセンター(図書室)	1	2	2	3	1	3	
		図書準備室	-	-	-	適宜	1	適宜	
	理科室	理科室	1.4	1	1.4	1.2	1	1.2	
		理科準備室	0.5	1	0.5	0.6	1	0.6	
	音楽室	音楽室1	1.4	1	1.4	1.4	1	1.4	
		音楽室2	1	1	1	1.4	1	1.4	
		音楽準備室	0.5	1	0.5	0.5	1	0.5	
	家庭科室	家庭科室	1.5	1	1.5	1.4	1	1.4	
		家庭科準備室	0.5	1	0.5	0.9	1	0.9	
	図工室	図工室1	1.5	1	1.5	1.4	1	1.4	
		図工準備室1	0.5	1	0.5	1	1	1	
		図工室2※ ¹	-	-	-	1.5	1	1.5	
		図工準備室2	-	-	-	0.5	1	0.5	
	ランチルーム※ ²		1	1	1	地域スタジオと兼用		-	
	算数教室※ ²		1	1	1	1	2	1	多目的室と兼用
	コンピューター調整室		1	1	1	0.5	1	0.5	
	郷土資料室		1	1	1	0.7	1	0.7	
	道徳資料室		0.1	1	0.1	郷土資料室と兼用		-	
	特別支援教室	オアシス	-	-	-	0.5	1	0.5	
		スマイル	1	1	1	1	1	1	
	そだち室		0.5	1	0.5	0.6	1	0.6	
	特別活動室		1	1	1	倉庫等に代替		-	
コマ数小計		17.4			21.1(適宜の室を除く)				
④管理諸室	校長室		0.5	1	0.5	0.6	1	0.6	
	職員室		1.5	1	1.5	2.1	1	2.1	
	印刷室		0.3	1	0.3	0.6	1	0.6	
	会議室		多目的室を兼用		-	地域スタジオを兼用		-	
	放送室		0.4	1	0.4	0.4	1	0.4	
	保健室		1	1	1	1	1	1	
	教育相談室		0.5	1	0.5	0.4	1	0.4	
	事務室	事務室	0.5	1	0.5	0.5	1	0.5	
		事務倉庫	-	-	-	0.3	1	0.3	
	主事	主事室	0.4	1	0.4	0.4	1	0.4	
		主事倉庫	-	-	-	0.3	1	0.3	
	職員更衣室(男・女)		0.4	1	0.4	適宜	各1	適宜	

※ 1 既存校舎にて図工室 2 と放課後子ども教室は兼用のため、放課後子ども教室欄にコマ数をカウントしました。

※ 2 既存校舎にて算数教室とランチルームは兼用のため、ランチルームにコマ数をカウントしました。

Ⅲ. 資料編（基本構想）

3. 施設概要

（2）標準施設一覧

表 Ⅲ - 3 - 1 標準施設一覧②

部門	室名		既存宮城小			新校舎(案)			
			一室の規模 (コマ)	室数	規模 (コマ×室数)	一室の規模 (コマ)	室数	規模 (コマ×室数)	備考
④管理諸室	児童更衣室	児童更衣室1	1	1	1	適宜	各3	適宜	普通教室がある階に男女1室ずつ配置
		児童更衣室2	0.4	1	0.4	-	-	-	
	その他	教材室	0.1	1	0.1	0.4	1	0.4	
	コマ数小計		7			5.6(適宜の室を除く)			
⑤地域諸室	地域諸室	PTA室	1	1	1	1	1	1	
		地域スタジオ	-	-	-	3.4	1	3.4	
	クラブ室		1	1	1	2	1	2	
	地域連携室		-	-	-	0.5	1	0.5	
	コマ数小計		2			6.9			
⑥放課後	学童保育		-	-	-	1.5	1	1.5	
	放課後子ども教室※1		1	1	1	1	1	1	
	コマ数小計		1			2.5			
⑤給食	配膳室		-	-	-	適宜	4	適宜	1-4階に1室ずつ配置
	給食室		2	1	2	7	1	7	
	コマ数小計		2			7(適宜の室を除く)			
⑥体育施設	体育館	アリーナ	9.9	1	9.9	10.6	1	10.6	
		ステージ	-	-	-	1.8	1	1.8	
		倉庫	0.3	1	0.3	1.4	1	1.4	
		放送室	0.3	1	0.3	適宜	1	適宜	
		風除室	-	-	-	適宜	1	適宜	
		バリアフリートイレ	-	-	-	適宜	1	適宜	
		更衣室(男・女)	-	-	-	適宜	各1	適宜	
		階段等	-	-	-	適宜	適宜	適宜	
	プール	更衣室(男・女)	0.3	2	0.6	適宜	各1	適宜	
		トイレ(男・女)	-	-	-	適宜	各1	適宜	
		倉庫	-	-	-	適宜	1	適宜	
		管理室	-	-	-	0.3	1	0.3	
	屋内運動室(屋内避難スペース)		-	-	-	8.3	1	8.3	
	体育準備室		0.6	1	0.6	体育倉庫に代替		-	
	コマ数小計		11.7			22.4(適宜の室を除く)			
⑦その他	倉庫・物品庫		0.5	2	0.9	適宜	適宜	適宜	
	防災備蓄倉庫		0.5	1	0.5	1+0.3	2	1.3	
	プール機械室		0.2	1	0.2	0.7	1	0.7	
	機械室		-	-	-	1.8	1	1.8	
	ゴミ庫		-	-	-	0.3	1	0.3	
	水廻り	児童用トイレ(男・女)	0.6	8	4.8	適宜	各10	適宜	各階に男女2室ずつ配置
		先生・来賓用トイレ(男・女)	0.6	1	0.6	適宜	各2	適宜	
		バリアフリートイレ	-	-	-	適宜	適宜	適宜	
		シャワー室	-	-	-	保健室内を想定		-	
		給湯室	-	-	-	適宜	1	適宜	
	ポンプ室		0.5	1	0.5	適宜	2	適宜	
	コマ数小計		7.5			4.1(適宜の室を除く)			
⑧付属施設	陶芸室		0.2	1	0.2	図工準備室に計画		-	
	体育倉庫		0.5	1	0.5	0.3	2	0.6	
	屋外シャワー室		0.1	1	0.1	-	-	-	
	屋外備蓄倉庫		0.5	1	0.5	0.5	1	0.5	
	屋外トイレ(男・女)		0.2	1	0.2	適宜	各1	適宜	
	変電室		0.2	1	0.2	-	-	-	
	コマ数小計		1.7			1.1(適宜の室を除く)			

※1 既存校舎にて図工室2と放課後子ども教室は兼用のため、放課後子ども教室欄にコマ数をカウントしました。

三．資料編（基本構想）

4．配置計画の比較検討

表 Ⅲ - 4 - 1 配置ゾーニング比較表

設計条件	学校施設内で学校運営を継続しながら建て替えて行う。案A、案Bでは、仮設校舎を学校敷地内に計画をする。案Cでは仮設校舎を設けない検討を行う			案C（南側配置（5階建て）_仮設校舎なし）	
	案A（北側配置（4階建て）_仮設校舎あり）	案B（西側配置*（4階建て）_仮設校舎あり） ※既存校舎と同様の配置	案C（南側配置（5階建て）_仮設校舎なし）		
配置断面構成 配置ゾーニング図					
工期	◎	×	△	△	△
コスト	△	×	×	○	○
工事大	○	△	△	△	△
運学用校	△	△	△	○	○
環境校	○	×	×	×	×
環境習	◎	△	△	△	△
校庭	◎	△	△	○	○
近隣	○	○	○	×	×
運地	◎	◎	◎	△	△
省エネ	◎	◎	◎	◎	◎
ライン	◎	◎	◎	△	△
備考	・工事期間が最も短く、児童への負担が最小となる。	・工事中、校舎と体育館の児童動線が工事ステップ毎に変わるため、安全確保に留意が必要	・工事中、校舎と体育館の児童動線が工事ステップ毎に変わるため、安全確保に留意が必要	・工事中、校舎と体育館の児童動線が工事ステップ毎に変わるため、安全確保に留意が必要	・工事中、校舎と体育館の児童動線が工事ステップ毎に変わるため、安全確保に留意が必要
総合評価	◎	×	△	△	△

Ⅲ．資料編（基本構想）

4. 配置計画の比較検討

・配置ゾーニング A 案 ステップ図

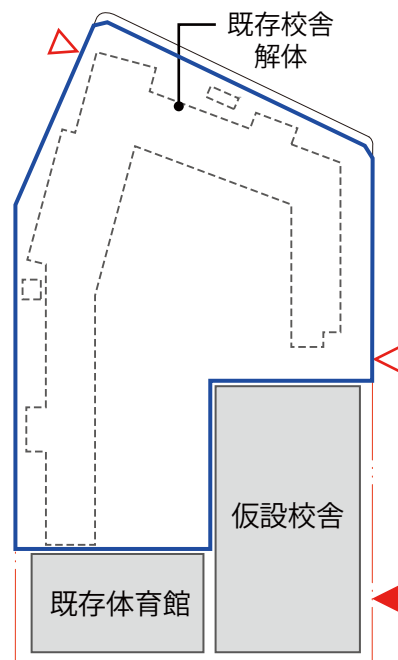
ステップ1

・仮校舎の建設



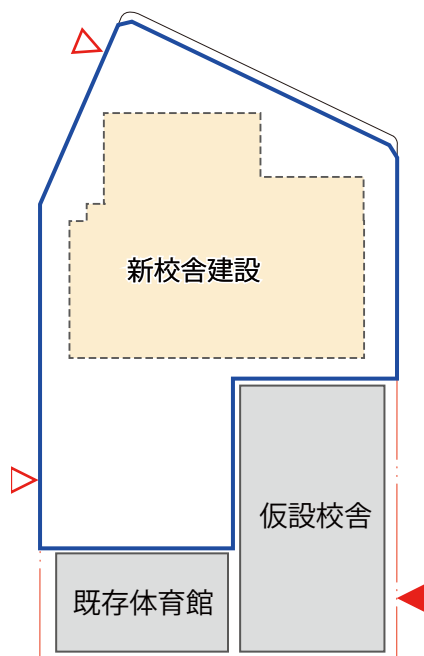
ステップ2

・既存校舎の解体



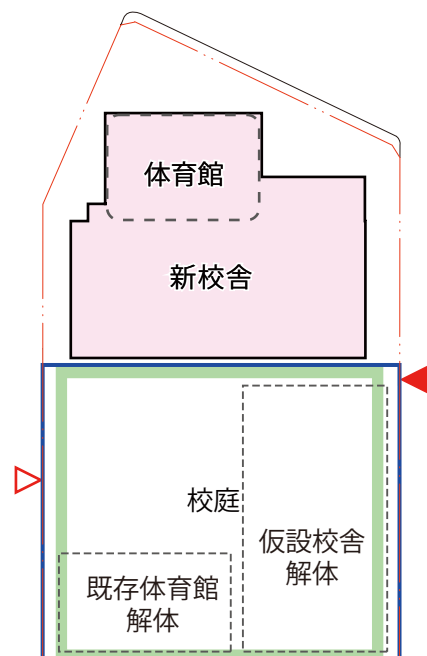
ステップ3

・新校舎の建設

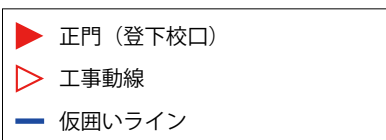


ステップ4

・既存体育館・仮設校舎 解体
・校庭・外構 整備



凡例



※本図は工事ステップを示す概念図であり、各ステップにおける建物外形・各種動線・仮囲いライン等は変更の可能性があります。

図 Ⅲ-4-1 ステップ図

Ⅲ．資料編（基本構想）

5. ゾーニング

（１）校舎の配置と外部動線について

校舎は敷地北側に配置し、南側に校庭を確保するとともに、普通教室は日照条件に優れた南向きとします。児童は正門から南側昇降口を利用する計画とし、職員については自転車通勤者が北門から東側駐輪場を経由して昇降口へ向かう動線とすることで、歩車分離に配慮します。来客・給食搬入動線は北西側に集約し、駐車場・サービスヤードに近接して配置することで、児童動線との交錯を避けます。主な地域開放部分も北側にまとめ、体育館・クラブ室（２階）へ直接アクセス可能な計画とします。併せて、地域との接点として北側道路に面した宮城プラザを設け、地域スタジオ、エントランスホールへと連続する構成とします。さらに、校庭を介して南宮城公園へ視線・環境が連続する計画とします。なお、門扉等により学校の生活領域と地域利用領域を整理し、場面（平常時・放課後・休日等）に応じて開放範囲を切り替えられる計画とすることで、利便性や防犯性に配慮します。

（２）学校機能の構成について

学校機能の構成としては、２～４階に普通教室を配置し、１階南西部に特別支援学級を設けることで静穏な環境を確保します。普通教室は全学年南向きとし、東・西側に特別教室を配置します。校舎中央にメディアセンター（図書室）およびコモンズ（各教室と連携し、学習や交流を促す共用空間）を配置し、多様な交流と協働学習を促します。メディアセンターは各学年がアクセスしやすい３階に配置します。併せて、コモンズ・動線・吹抜けを一体的に計画し、児童が主体的に居場所や関わり方を選べる学習環境を整えます。

（３）防災計画について

防災計画としては、災害時に避難所となる体育館、および避難所運営の拠点となる職員室を２階に配置し、２階床高さは想定最大浸水深を上回る高さに計画します。さらに、５階に屋内避難スペースとなる屋内運動場を設け、２階・５階に防災備蓄倉庫を整備することで、避難所機能を強化します。ストレッチャー搬送に対応するエレベーターを校舎中央に設置するとともに、外周部にバルコニー・屋外階段を設け、水害時に地域住民が迅速に避難可能な動線を確保します。

（詳細は、「Ⅳ - 6. 防災・減災対策」を参照）

・断面イメージ S=1:500

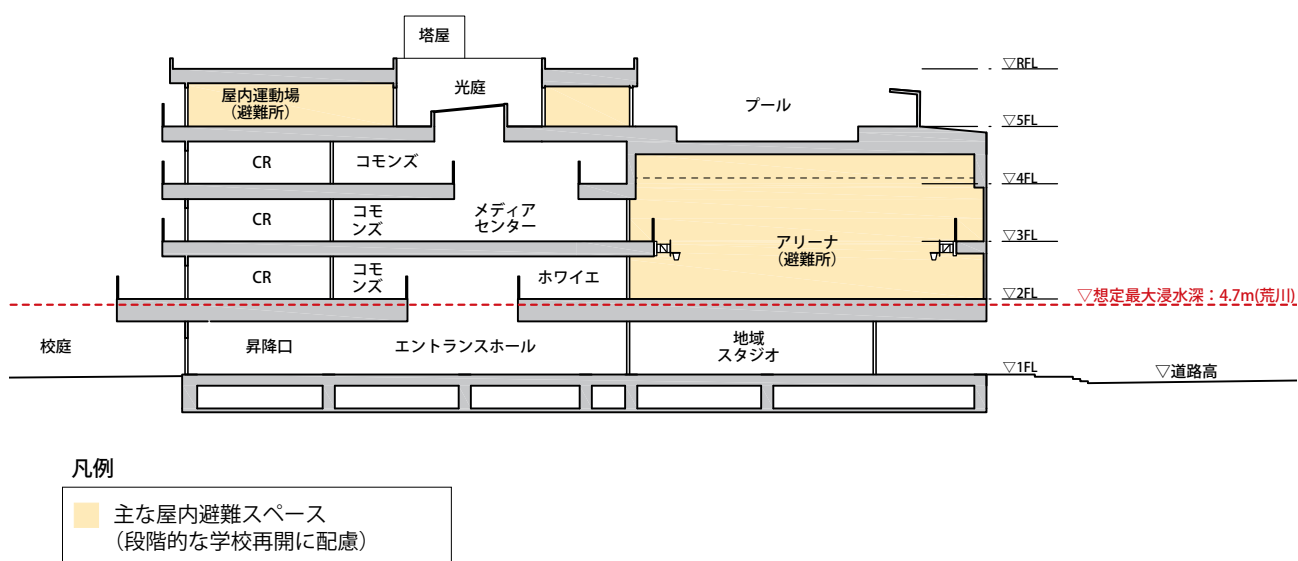


図 Ⅲ - 5 - 1 断面イメージ

III. 資料編（基本構想）

5. ゾーニング

ゾーニング凡例

- 普通教室（多目的室含む）
- 特別支援学級
- 特別教室（図工室・理科室等）
- 吹抜け廻りの共用空間※（回廊型廊下・commons）
- 管理室（職員室・保健室等）
- 地域室
- 学童等
- 給食
- 体育館・屋内運動室（避難所）
- その他・付属施設
- 主要な階段
- EV
- ▶ 児童・職員入口
- ▶ 地域入口
- ▶ 来校者入口
- ▶ 学童入口
- 敷地境界線

※吹抜形状は調整中につき、変更の可能性あります

外周テラス+屋外階段により、円滑な垂直避難と水害時の避難に対応
水害対策 垂直避難

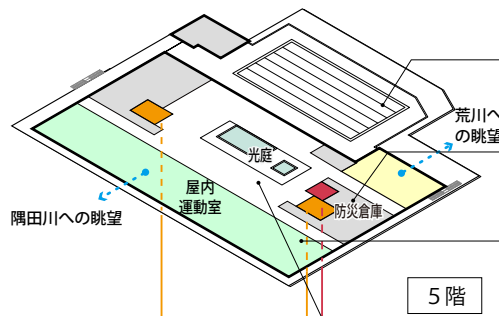
主たる避難所となる体育館、避難所運営の拠点となる職員室を2階に配置
水害対策

防災と学びのテラスの機能
平常時：低学年の安全な遊び場・運動会の観客席など
水害時：地域住民の一時避難場所
水害対策

来客入口・給食搬入口を駐車場・サービスヤードに近接して設置

緑の景観形成

公園との連携による防災強化
災害対応

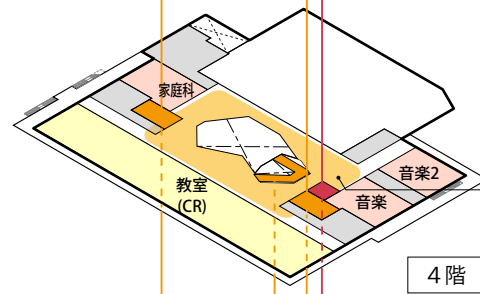


敷地を有効活用するため屋上にプールを配置

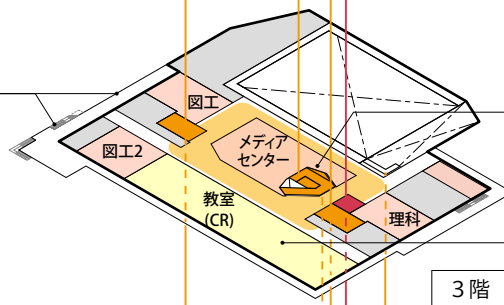
屋内運動室に近接して防災備蓄倉庫を設置
災害対応

避難所機能を有する屋内運動室
災害対応

トップライトを設け、下階の採光・自然換気を図る

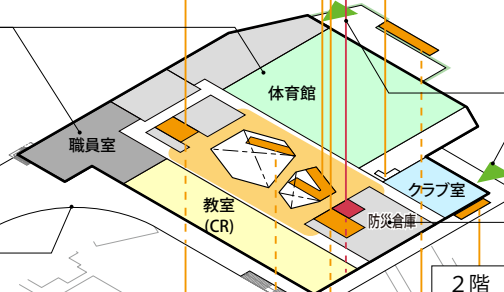


回遊性のある廊下に面して各教室のcommonsを配置し、多様な学習が展開可能
吹抜けを介して上下階が一体感をもってつながり、多様な居場所と学年を越えた交流を促進する



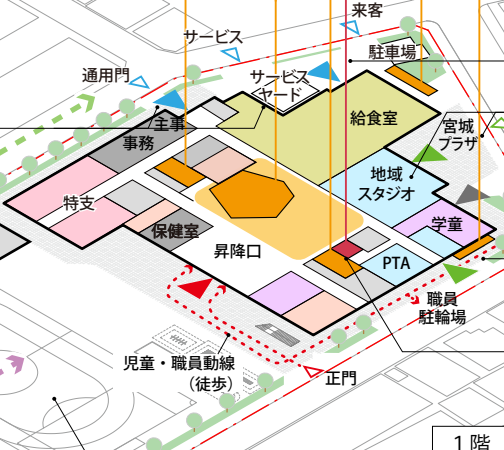
全学年がアクセスしやすい3階にメディアセンターを配置
吹抜け上部のトップライトにより適切な自然採光を確保

日当たりの良い南向き教室



体育館・クラブ室は地域開放を想定し、外部から直接アクセス可能

体育館に近接して、防災備蓄倉庫を設置
災害対応



駐車場・サービスヤードを児童の入口から離して配置

北側道路に面して、地域利用も想定した多目的な室と広場を配置

ストレッチャー搬送等を考慮したエレベーターを設置
災害対応

校舎の影にならない敷地南側に、公園と隣接した校庭を配置

図 III - 5 - 2 ゾーニング

Ⅲ．資料編（基本構想）

6. 外観イメージ図



南側立面イメージ



2階 防災と学びのテラス イメージ



北東側イメージ



正門前 イメージ



宮城プラザ前 イメージ

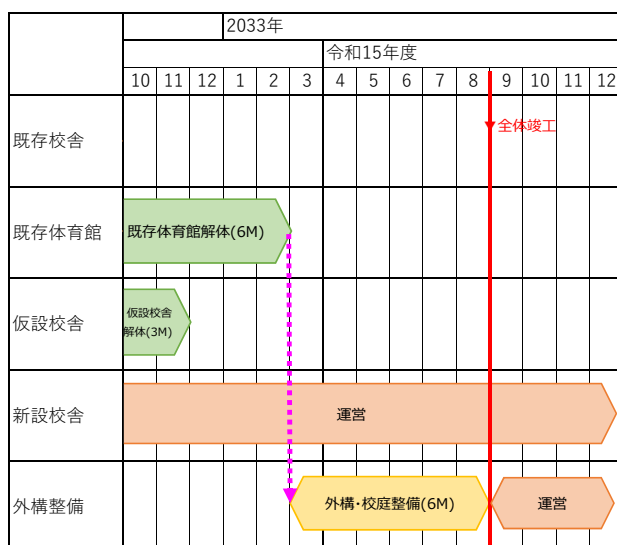
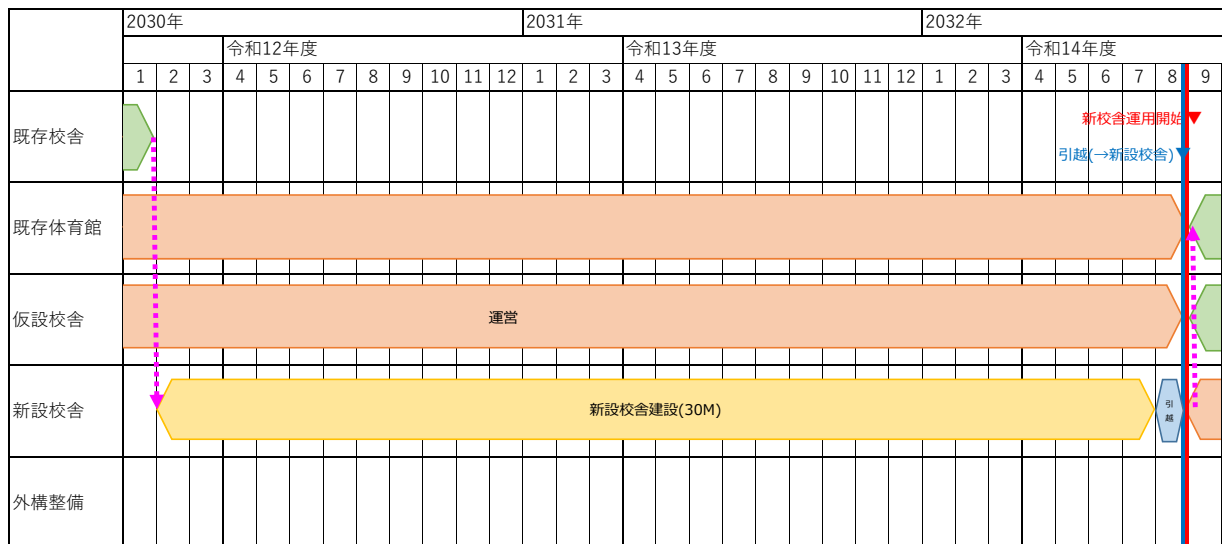
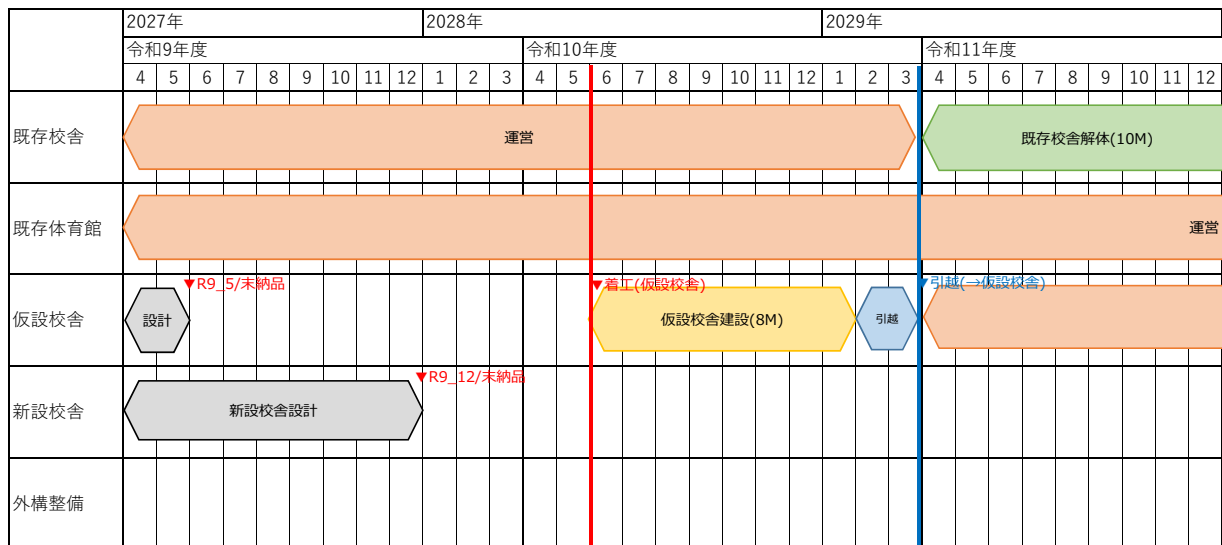
※本図は空間構成や設計意図を示すイメージであり、詳細は今後検討により変更の可能性があります。

校舎外周にバルコニーおよび外部階段を設け、災害時・緊急時の避難経路を確保します。外周バルコニーは日射遮蔽の庇としても機能しつつ、南宮城公園の眺望と落ち着いた学習環境をつくります。また、水平ラインを特徴とした外観デザインにより、低層建物が立ち並ぶ緑豊かな周辺環境と調和した景観を形成します。

Ⅲ. 資料編（基本構想）

7. スケジュール

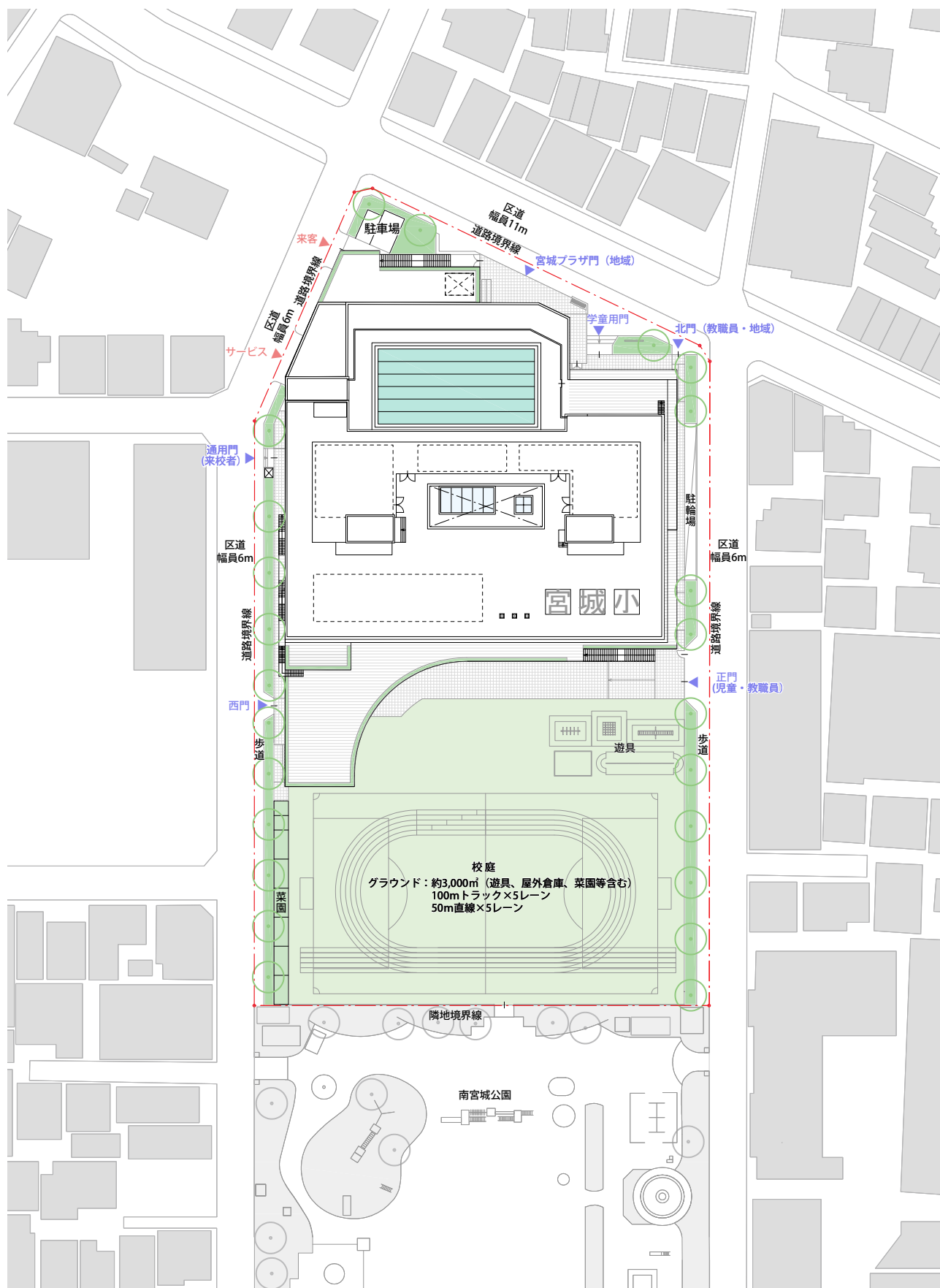
表 Ⅲ - 7 - 1 全体工事スケジュール



※学校敷地内で学校運営を継続しながら建て替えるため、一般的な新築工事に比べ工事期間が長期化する想定です。

Ⅳ．資料編（基本計画）

1. 配置計画



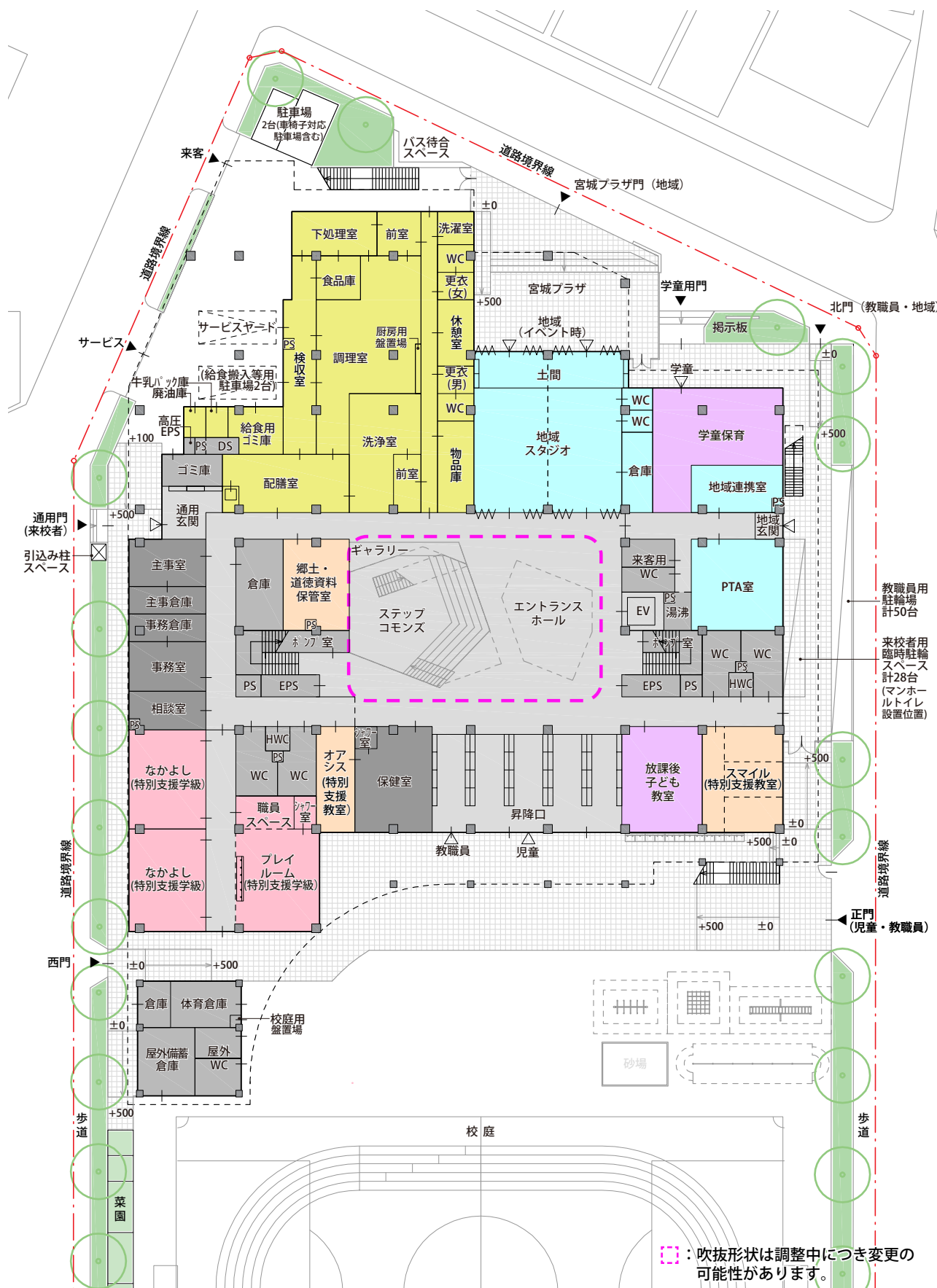
配置図 S=1:800

凡例

◀ 門 ▶ 車両出入口
--- 敷地境界線

Ⅳ．資料編（基本計画）

2. 平面計画



Ⅳ．資料編（基本計画）

2. 平面計画



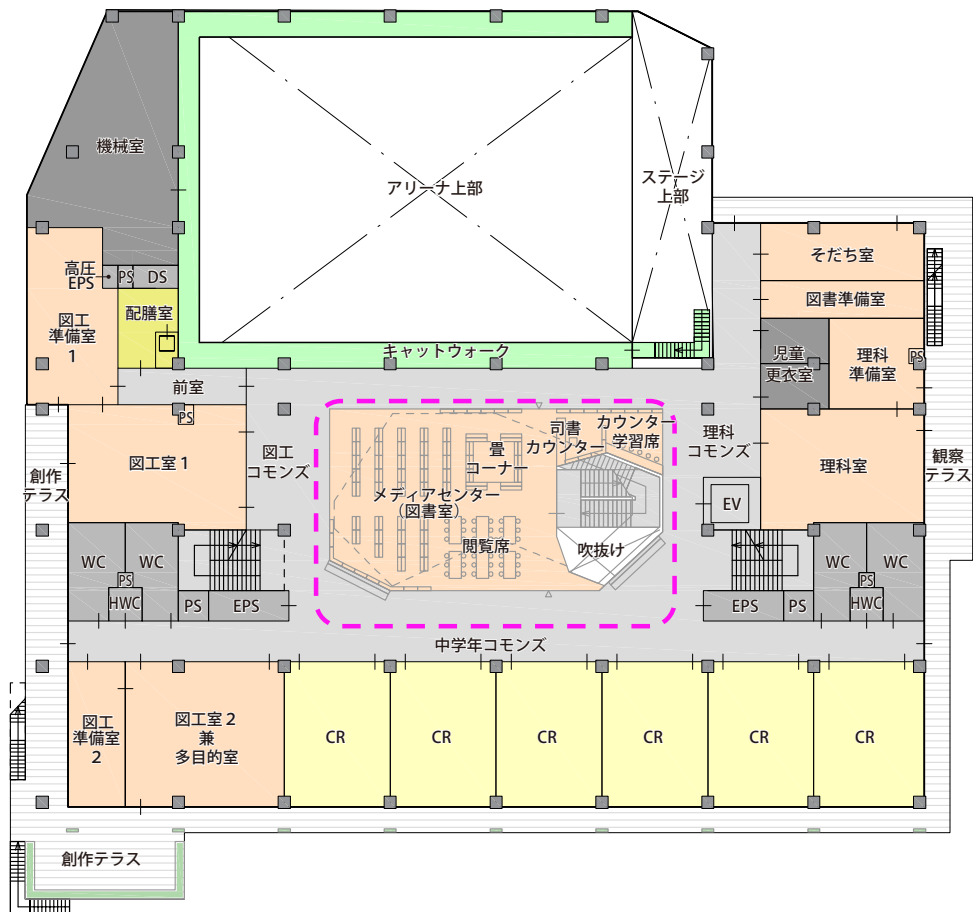
2階平面図 S=1:500

ゾーニング凡例

普通教室	特別支援	特別教室	管理室	地域室
学童等	給食	体育室	その他・付属施設	

Ⅳ. 資料編（基本計画）

2. 平面計画



□：吹抜形状は調整中につき変更の可能性あります。

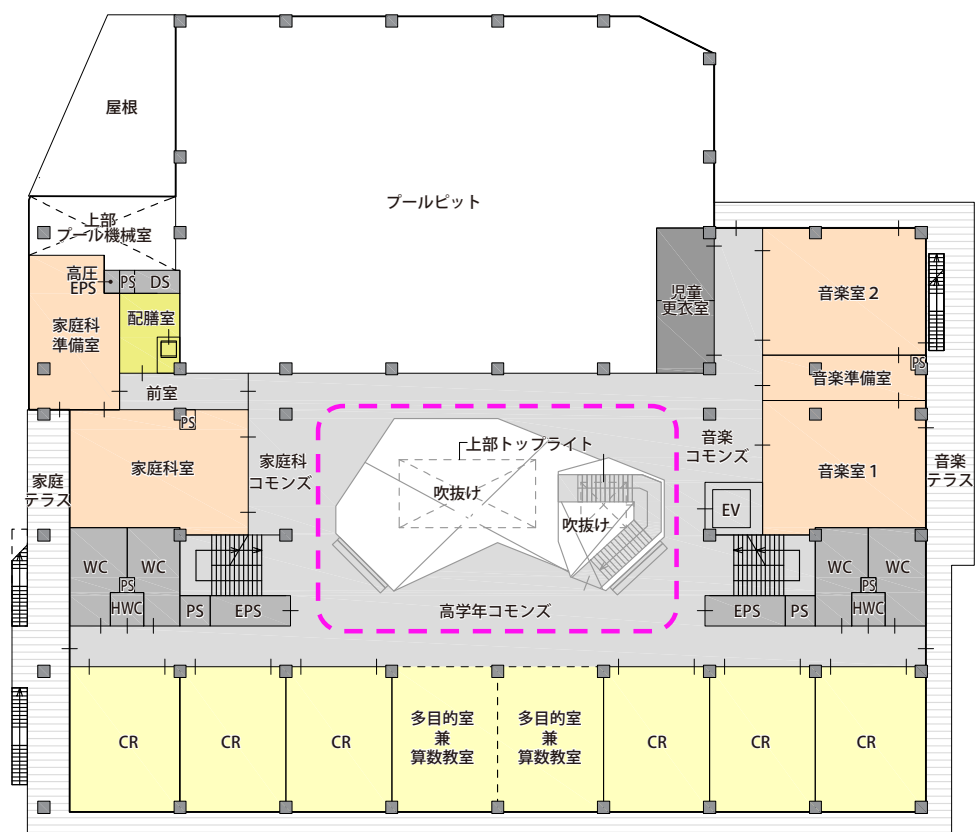


3階平面図 S=1:500

ゾーニング凡例

普通教室	特別支援	特別教室	管理室	地域室
学童等	給食	体育室	その他・付属施設	

2. 平面計画



□：吹抜形状は調整中につき変更の可能性あります。



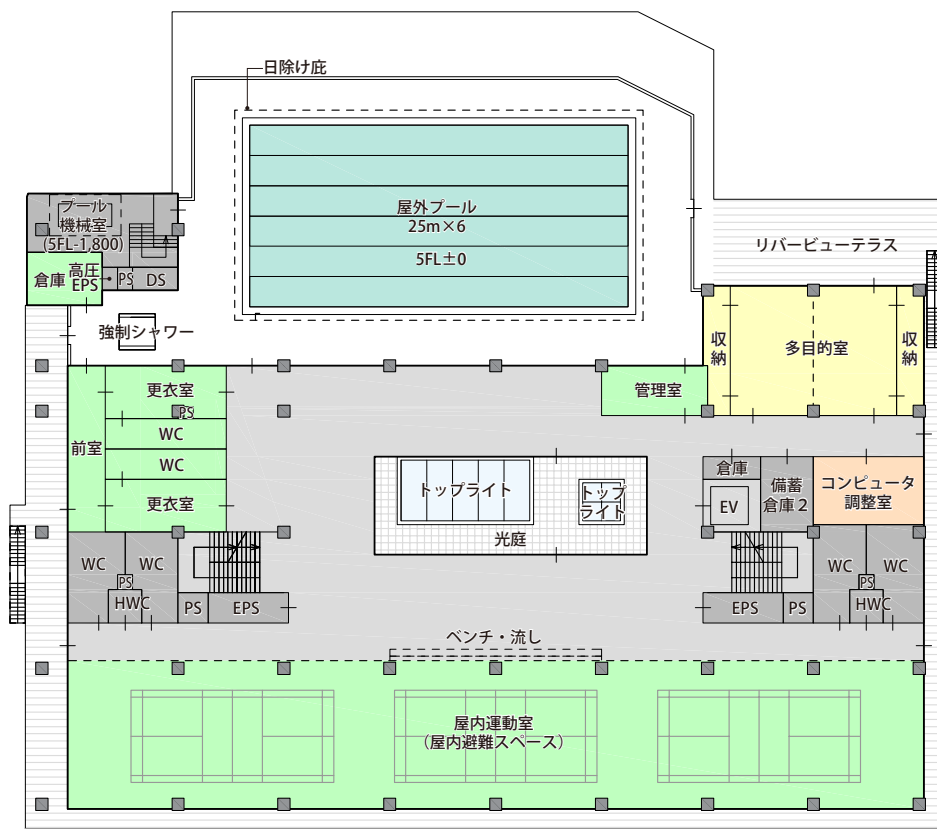
4階平面図 S=1:500

ゾーニング凡例

普通教室
 特別支援
 特別教室
 管理室
 地域室
 学童等
 給食
 体育室
 その他・付属施設

Ⅳ. 資料編（基本計画）

2. 平面計画



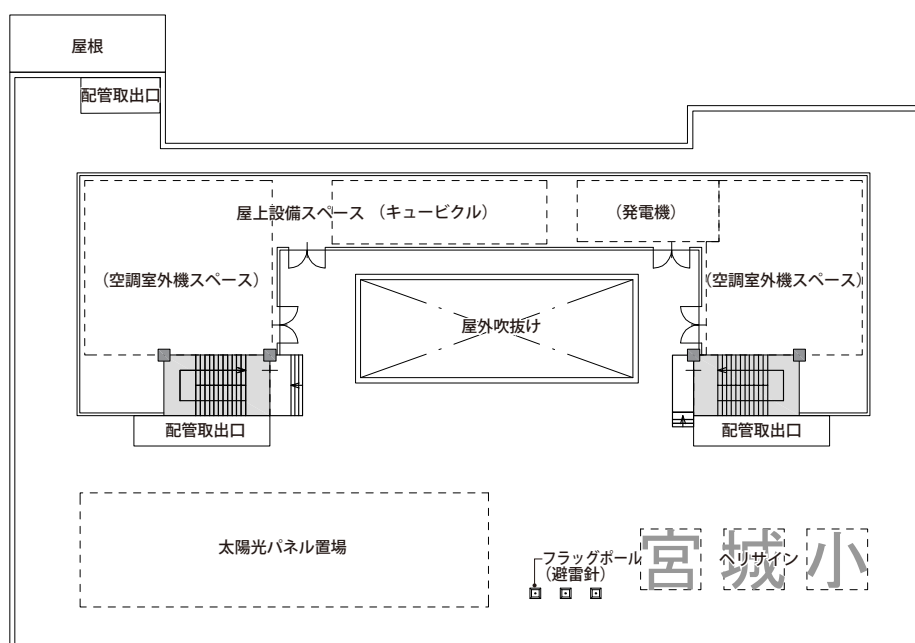
5階平面図 S=1:500

ゾーニング凡例

普通教室	特別支援	特別教室	管理室	地域室
学童等	給食	体育室	その他・付属施設	

Ⅳ. 資料編（基本計画）

2. 平面計画



R 階平面図 S=1:500

ゾーニング凡例

普通教室	特別支援	特別教室	管理室	地域室
学童等	給食	体育室	その他・付属施設	

Ⅳ. 資料編（基本計画）

3. 施設一覧

表Ⅳ-3-1 施設一覧①

部門	室名		計画面積※1			備考
			面積 (㎡)	室(箇所)数	計 (㎡)	
①普通教室 関連	普通教室(GR)		67	18	1,206	・1クラス最大35人で計画 ・児童の収納スペースやICT関連機器を設置 ・各学年エリア内に流しを設置
	多目的室	多目的室 兼 算数教室	67	2	134	・算数教室と兼用
		多目的室	124	1	124	・収納スペースを設置
	小計				1,464	
② 特別支援 学級	特別支援学級	なかよし(普通教室)	63	2	126	・教室に近接して流しを設置
		ブレイルーム	92	1	92	・室内に職員スペースとシャワースペースを設置
	小計				218	
③ 特別教室 関連	図書室	メディアセンター(図書室)	203	1	230	・学習センターとしての利用に対応した計画とする ・1クラスが授業可能な閲覧席数を設置
		図書準備室	27	1		
	理科室	理科室	82	1	119	・教師の実験等が見やすい配慮
		理科準備室	37	1		
	音楽室	音楽室1・2	91	2	214	・準備室を挟んで同規模の2室を配置 ・室内に流しを設置 ・各室とも準備室と隣接・防音性を確保
		音楽準備室	32	1		
	家庭科室	家庭科室	94	1	152	・準備室と隣接
		家庭科準備室	58	1		
	図工室	図工室1	94	1	296	・準備室と隣接
		図工準備室1	66	1		・陶芸釜を設置
		図工室2 兼 多目的室	100	1		・低学年用の図工室 ・可動家具を設置 ・多目的室を兼用 ・準備室と隣接
		図工準備室2	36	1		
	コンピューター調整室		32	1	32	・コンピューター等の保管・調整のための室
	郷土・道徳資料保管室		49	1	49	・郷土・道徳資料等を保管
	特別支援教室	オアシス	33	1	103	・登下校しやすい1Fに配置 ・10名程度を収容可能な規模 ・保健室に隣接
		スマイル	70	1		・登下校しやすい1Fに配置 ・部屋を分割できる設えとする
	そだち室		41	1	41	・個別指導等のための室
	小計				1,236	

※1 各室面積は、小数点以下を切り捨てて整数値で表記しています

Ⅳ. 資料編（基本計画）

3. 施設一覧

表Ⅳ-3-1 施設一覧②

部門	室名		計画面積※1			備考
			面積 (㎡)	室(箇所)数	計 (㎡)	
④ 管理諸室	校長室		38	1	38	・職員室と近接 ・校庭に面して配置 ・流しを設置
	職員室		146	1	146	・事務室・保健室との連携に配慮し、階段に近接して配置 ・校庭に面して配置 ・流しを設置
	印刷室		42	1	42	・職員室と隣接
	放送室		28	1	28	・職員室と近接
	保健室		67	1	67	・シャワー室を設置 ・ミニキッチンを設置 ・救急車の寄付きに配慮
	相談室		24	1	24	
	事務室	事務室	31	1	48	・事務倉庫と隣接
		事務倉庫	17	1		
	主事	主事室	30	1	47	・来校者通用口に面して配置 ・主事倉庫と隣接
		主事倉庫	17	1		
	職員更衣室(男・女)		18	2	36	・職員室と近接 ・男女1室ずつ
	児童更衣室(男・女)		-	6	計96	・2・4Fに男女1室ずつ
	教材室		24	1	24	
小計			596			
⑤ 地域諸室	地域諸室	PTA室	68	1	68	・休日等時間外の利用に配慮
		地域スタジオ	229	1	229	・視聴覚室(ランチルーム)を兼用 ・学年集会も可能な規模を確保 ・専用のトイレ・倉庫を設置 ・教職員の会議利用
	クラブ室		134	1	134	・畳敷きとし、児童も使いやすい位置に配置 ・専用のトイレ・倉庫・風除室を設置 ・休日等時間外の利用に配慮
	地域連携室		35	1	35	・休日等時間外の利用に配慮
	小計			466		

※1 各室面積は、小数点以下を切り捨てて整数値で表記しています

Ⅳ. 資料編（基本計画）

3. 施設一覧

表Ⅳ-3-1 施設一覧③

部門	室名		計画面積※1			備考
			面積 (㎡)	室(箇所)数	計 (㎡)	
⑥放課後	学童保育		97	1	97	
	放課後子ども教室		70	1	70	
小計			167			
⑦給食	配膳室	配膳室(1F)	60	1	60	・小荷物専用昇降機を設置
		配膳室(2～4F)	21	3	63	
	給食室	検収室	50	1	50	・搬入口を雨に濡れない位置に2カ所設置 ・給食専用として、給食用ゴミ庫・牛乳パック庫・洗濯機置き場等を設置 ・給食サンプルの設置場所を別途設置
		下処理室	30	1	30	
		食品庫	16	1	16	
		調理室	119	1	119	
		洗浄室	56	1	56	
		給食用ゴミ庫	20	1	20	
		廃油庫	5	1	5	
		牛乳パック庫	5	1	5	
		洗濯室	9	1	9	
		更衣室・トイレ(男・女)	16	2	32	
		休憩室	19	1	19	
		物品庫	27	1	27	
		前室・廊下※2	－	－	計70	
小計			581			
⑧体育施設	体育館	アリーナ	708	1	708	・アリーナはミニバスケットボールコート2面入る規模を確保 ・アリーナに隣接してホワイエ(人だまり空間)を設け、流しを設置 ・地域開放用の出入口を設置 ・アリーナ上部にキャットウォークを設置 ・ステージ内に階段・舞台袖スペース及び放送等のための作業スペースを確保 ・各更衣室にトイレ(男・女)を配置
		ステージ	119	1	119	
		器具庫	93	1	93	
		風除室・前室・キャットウォーク・階段※3	－	－	176	
		バリアフリートイレ	6	1	6	
		更衣室・トイレ(男・女)	24	2	48	
	プール	更衣室(男・女)	28	2	56	・プールは6レーンで計画 ・放送設備を設置
		トイレ(男・女)	16	2	32	
		倉庫	17	1	17	
		管理室	23	1	23	
		前室	27	1	27	
		屋内運動室(屋内避難スペース)	554	1	554	
	小計			1,859		

※1 各室面積は、小数点以下を切り捨てて整数値で表記しています

※2 前室2室(16㎡/13㎡)、廊下(41㎡)を含んでいます。

※3 風除室(17㎡)、前室(22㎡)、キャットウォーク・階段(合計面積137㎡)を含んでいます。

Ⅳ. 資料編（基本計画）

3. 施設一覧

表Ⅳ-3-1 施設一覧④

部門	室名		計画面積※1			備考
			面積 (㎡)	室(箇所)数	計 (㎡)	
⑨その他	倉庫		35	1	35	
			21	1	21	
			5	1	5	
	防災備蓄倉庫	備蓄倉庫1	69	1	69	・2F体育館に近接して配置
		備蓄倉庫2	17	1	17	・5F屋内避難スペースに近接して配置
	プール機械室		43	1	43	
	機械室		123	1	123	
	ゴミ庫		15	1	15	
	水廻り	児童用トイレ(男女合計)	－	10	計405	・各階に2カ所ずつ設置
		職員用トイレ(男・女)	15	2	30	
		来客用トイレ(男・女)	11	2	22	
		バリアフリートイレ	4	10	40	
		湯沸スペース	8	1	8	
	ポンプ室		－	2	計39	
	小計			872		
⑩付属施設	体育倉庫		26	1	26	・体育準備室を兼ねる
	屋外備蓄倉庫		32	1	32	・校舎に近接して配置
	倉庫		12	1	12	・学級菜園の近くに配置 ・水栓を設置
	屋外トイレ(男女合計)		26	1	26	
小計			96			
専有面積			7,555			
共用面積			3,614			廊下・コモンズ・階段・乗用EV・設備シャフト (2㎡以上のもの)を含む
ピロティ・バルコニー等面積			1,206			教職員用駐輪場(50台)部分を含む
延床面積			12,375			

※1 各室面積は、小数点以下を切り捨てて整数値で表記しています

Ⅳ．資料編（基本計画）

4．構造計画概要

① 耐震安全性の目標

耐震安全性の分類は、「構造設計指針・同解説（東京都財務局）2023 年 4 月版」に基づく施設の耐震目標水準Ⅱ類とし、大地震動後、人命の安全確保に加えて構造体の大きな補修をすることなく施設を使用できることを目標とします。

② 耐風性能の目標

耐風に関する性能は、施設の耐風目標水準Ⅱ類とし、建築基準法に基づく風圧力に対し割増しを行い、遭遇する可能性が低い暴風に対して人命の安全に加え建物機能の確保が図られることを目標とします。

③ 構造種別

建物規模や学校という用途を考慮し、「鉄筋コンクリート造」を基本とします。大空間となる体育館や内部の吹き抜け周り等の架構は、空間構成を考慮した最適な構造種別を比較検討し決定します。

④ 基礎計画

敷地地盤の特性を考慮し杭基礎として計画します。杭種別及び工法については敷地及び地盤条件、施工性、工期、経済性等の観点から比較検討を行い決定します。

Ⅳ．資料編（基本計画）

5. 機械・電気設備計画

① 学習・生活環境の安全性・利便性・快適性の向上	
電気設備	・不審者侵入や異常事態を監視し、異常検知時には関係機関へ迅速に通報できるセキュリティシステムを構築できる計画とします。 ・教育の ICT 化に対応するため、学習空間における照明環境の最適化および電源コンセントの適正配置・容量確保を図る計画とします。
機械設備	・学校環境衛生基準に準拠した計画とします。 ・多様な学習環境に対応可能な空調・換気システムとします。 ・屋外設置機器は設置場所を明確に区分し、安全性に配慮します。 ・騒音や臭気に配慮した計画とします。
② 災害時も機能しつづける学校避難所づくり	
電気設備	・被災による停電対応として発電設備等を整備することにより、避難所運営に必要な電力を供給できる計画とします。 ・受変電設備、発電設備などの重要設備は水損のリスクを避けるため、浸水高さ以上の位置に配置します。
機械設備	・信頼性の高い中圧ガスによる引き込みと、電源自立型 GHP の採用により、停電時にも稼働できる空調システムとします。 ・重要設備は浸水高さ以上の位置に配置します。 ・災害時に対応したマンホールトイレを計画します。
③ 学校施設の多機能化と複合化を見据えた設備計画	
電気設備	・用途や管理区分が明確になるように、電源系統を分けます。 ・照明の点滅区分においてもエリア別、用途別での点滅が可能な計画とします。 ・将来の負荷増設などを考慮し、ケーブルラックなどに将来増設スペースを確保します。
機械設備	・用途や管理区分ごとに稼働できる空調・換気システムとします。 ・将来の機器更新に配慮した計画とし、機器の増設にも対応可能なスペースを確保します。
④ 環境に配慮した省エネルギー建築の実現	
電気設備	・太陽光発電設備を導入し、発電した電力を施設利用することで、商用電力の使用電力量の低減を図ります。 ・各種省エネ機器等を導入し、消費電力の低減と環境に配慮した計画とします。
機械設備	・各種省エネ機器等を導入し、消費電力の低減と環境に配慮した計画とします。 ・使用時間帯に応じてエリアごとに稼働できる空調・換気システムとし、省エネルギーとともに維持管理も容易な設備計画とします。

Ⅳ. 資料編（基本計画）

6. 防災・減災対策

当地域の立地特性上懸念される水害を含めた、様々な災害リスクに対して、宮城小学校が担う避難所としての役割が果たせるよう、以下の取り組みを行います。

① 主要な避難所機能

水害時に避難所としての機能が十分発揮できるよう、主要な避難所機能（体育館や防災備蓄倉庫や職員室等）を想定最大浸水深以上となる2階に配置します。

② 体育館

主要な避難所となる2階の体育館は、外から直接利用できる外部動線を確保します。また、空調設備を完備して、快適性に配慮します。

③ 5階避難スペース

段階的な学校再開がしやすいよう、体育館を含む学校運営エリアとは分けて、5階にもまとまった避難スペースを計画します。周辺建物より高い位置に計画することで、荒川の様子を目視により確認できる計画とします。

④ 外周バルコニー・屋外階段

建物外周にはバルコニーと屋外階段を計画し、水害時も火災時も安全に避難ができるわかりやすい施設構成とします。

⑤ 耐震性

避難施設としての役割を果たせるよう、十分な耐震安全性能を確保します。

⑥ 重要設備の配置

主要な重要設備等は水没しないよう2階以上に計画します。

⑦ バックアップ機能

各ライフラインのバックアップを構築し、避難施設の継続的な利用をサポートします。

⑧ 物資搬入

上階の防災備蓄倉庫への物資搬入のしやすさに配慮して、エレベーターのかごサイズを検討します。

⑨ 校庭配置

校庭配置は南宮城公園と隣接させて、災害活動や救護等において一体的に連携が図りやすい計画とします。また、校庭と公園のまとまったスペースにより、敷地周辺の火災時には延焼防止としての役割を担います。

Ⅳ. 資料編（基本計画）

7. ZEB 化・木材利用・LCC 縮減に向けた検討方針

□ ZEB について

地球環境に配慮した学校づくりを行い、ZEB Ready の環境性能の実現を目指します。エネルギー消費量やランニングコストを削減するためには、以下のような対応が挙げられます。具体的な方策は、今後の基本設計において検討していきます。

（１）建物の環境負荷を低減する

- ・外壁や屋根の高断熱化
- ・Low-E ガラス等によるガラスの高断熱化
- ・バルコニーや庇による日射制御
- ・屋上の緑化

（２）自然エネルギーの活用

- ・ハイサイドライト等による自然採光
- ・吹抜による自然換気
- ・太陽光パネルの設置
- ・トイレ洗浄水への雨水利用

（３）高性能機器の導入

- ・高効率空調の採用
- ・LED 照明、明るさセンサーの設置
- ・節水型衛生器具の採用

□ 木材利用について

リラックス効果や学習意欲の向上を目指して、児童や教職員の目に触れやすい部分等、効果的に木質化を図ります。また、メンテナンス性にも配慮し、雨が直接かかる場所での使用を避けて、内装材での木材利用を検討します。

□ LCC 縮減についての考え方

建築費動向を踏まえ RC 造とする他、使用建材・工法の工夫により建築物の長寿命化を進め、LCC を標準的な 60 年建築に比べて、1 年あたり 29% 削減をプロポーザル資料にて提案しています。基本設計では具体的に計画を進めるとともに、「建築物のライフサイクルコスト」（令和 5 年版建築保全センター）等の算出方法を活用して、LCC の試算を行っていきます。

表Ⅳ-7-1 LCC の試算（プロポーザル提案時）

